

## 平成以降の小学校国語教科書における短歌教材について(2)

入 江 昌 明

### 一 はじめに

本稿は、小学校の国語教科書における短歌教材を考察するための基礎資料として纏めた「平成以降の小学校国語教科書における短歌教材について(1)」の続編である。前稿では平成以降に刊行された東京書籍、光村図書、教育出版の小学校国語教科書に収載された短歌教材を取り上げたので、本稿では学校図書、大阪書籍、日本書籍の国語教科書に収載された短歌教材を取り上げた。なお、日本書籍は平成十七年度の教科書検定を受けていないので、同社の短歌教材については平成十三年度までの国語教科書に収載されたものを掲出した。

### 二 短歌教材の掲出方法

前稿と同様、以下の要領に従って各国語教科書の短歌教材を掲出した。  
※短歌教材は、各出版社別に平成十七年度版教科書から年代を遡る形で掲出した。

※「短歌」と「俳句」で構成された単元に取り上げられた短歌には、収載歌数がわかるよう通し番号を付した。

※作者名や歌集名などは、すべてその歌の前行に掲出した。

※作者名や歌集名、短歌中の漢字、歴史的仮名遣いの部分などに施されたルビはすべて教科書通りとした。

※古典教材として取り上げられている『百人一首』も一応、短歌教材として掲出した。

※短歌に関するコラムの類も短歌教材として掲出した。

※短歌以外の教材中に短歌が載っている場合は、その旨を記し短歌だけを掲出した。

### 三 学校図書の短歌教材

平成十七年度版教科書

『みんなと学ぶ 小学校 国語 六年上』

「短歌と俳句 佐佐木 幸綱」(七四頁〜七九頁)

七四頁から七五頁にかけて短歌と俳句に関する解説、その後に短歌と俳句を比較対照するかたちで古歌一首と近現代短歌を三首、併せて四首を収載する。短歌も俳句もイメージしやすいように色彩感豊かな作品を選んでおり、①と②に解説を付す。

持統 天皇

①春過ぎて夏きたるらし白たへの衣ほしたり天の香具山

良寛

前田 夕暮

②ひまはりは金の油を身にあびてゆらりと高し日のちひささよ

石川 啄木

与謝野 晶子

③金色のちひさき鳥のかたちして銀杏ちるなり夕日のおかに

藤原 敏行

俵 万智

④自転車のカゴからわんとはみ出してなにか嬉しいセロリの葉っぱ

佐々木 信綱

○ゆく秋の大和の国の薬師寺の塔の上なる一ひらの雲

若山 牧水

○白鳥は哀しからずや空の青海の青にも染まずただよふ

山部 赤人

○田子の浦ゆうちいでてみれば真白にそ富士の高ねに雪は降りける

平成十七年度版教科書

『みんなと学ぶ 小学校 国語 六年下』

『連詩』を発見する 大岡 信が、日本人女性として初めて宇宙

へ旅立った向井千秋さんから送られたメッセージ（短歌の上の句）「宙  
返り 何度までできる 無重力」を紹介し、その呼びかけに応じて作られ  
た下の句を上との句と合わせた形で三首収載する。

○宙返り 何度までできる 無重力 水のまりつき できたらいいな

○宙返り 何度までできる 無重力 わたしの体重 ないのよウフフ

○宙返り 何度までできる 無重力 次はばくらが 飛び立つ番だ

資料編

「四季のうたに親しもう」に古歌四首と近代短歌を三首、併せて七首を  
収載する。

紀 友則

○久方のひかりのどけき春の日にしづ心なく花の散るらむ

前田 夕暮

○この里に手まりつきつつ子どもらと遊ぶ春日はくれずともよし

石川 啄木

○汽車の旅とある野中の停車場の夏草の香のなつかしかりき

藤原 敏行

○秋来ぬと目にはさやかに見えねども風の音にぞおどろかれぬる

佐々木 信綱

平成十三年度版教科書

『みんなと学ぶ 小学校国語 六年上』

「短歌と俳句 佐佐木 幸綱」（九四頁～九九頁）

九四頁から九五頁にかけて短歌と俳句に関する解説、その後短歌と  
俳句を比較対照するかたちで古歌一首と近現代短歌三首、併せて四首を  
収載する。短歌も俳句もイメージしやすいように色彩感豊かな作品を選  
んでおり、①と②に解説を付す。

持統 天皇

①春過ぎて夏きたるらし白たへの衣ほしたり天の香具山

前田 夕暮

② ひまはりは金の油を身にあびてゆらりと高し日のちひささよ

与謝野 晶子

③ 金色のちひさき鳥のかたちして銀杏ちるなり夕日のおかに

依 万智

④ 自転車のカゴからわんとはみ出してなにかうれしいセロリの葉っぱ

平成十三年度版教科書

『みんなと学ぶ 小学校国語 六年下』

『連詩』を発見する 大岡 信が、日本人女性として初めて宇宙

へ旅立った向井千秋さんから送られたメッセージ（短歌の上の句）「宙  
返り 何度もできる 無重力」を紹介し、その呼びかけに応じて作られ  
た下の句を上との句と合わせた形で三首収載する。

○宙返り 何度もできる 無重力 水のまりつき できたらいいな

○宙返り 何度もできる 無重力 わたしの体重 ないのよウフフ

○宙返り 何度もできる 無重力 次はぼくらが 飛び立つ番だ

平成十一年度版教科書

『みんなと学ぶ 小学校 国語 六年上』

「短歌と俳句 佐佐木 幸綱」（一〇〇頁～一〇五頁）

一〇〇頁から一〇一頁にかけて短歌と俳句に関する解説、その後短  
歌と俳句を比較対照するかたちで古歌一首と近現代短歌三首、併せて四  
首を収載する。短歌も俳句もイメージしやすいように色彩感豊かな作品  
を選んでおり、①と②に解説を付す。

① 春過ぎて夏きたるらし白たへの衣ほしたり天の香具山

前田 夕暮

② ひまはりは金の油を身にあびてゆらりと高し日のちひささよ

与謝野 晶子

③ 金色のちひさき鳥のかたちして銀杏ちるなり夕日のおかに

依 万智

④ 自転車のカゴからわんとはみ出してなにかうれしいセロリの葉っぱ

平成七年度版教科書

『小学校 国語 六年上』

「短歌と俳句 佐佐木 幸綱」（九八頁～一〇三頁）

九八頁から九九頁にかけて短歌と俳句に関する解説、その後短歌と  
俳句を比較対照するかたちで古歌一首と近現代短歌三首、併せて四首を  
収載する。短歌も俳句もイメージしやすいように色彩感豊かな作品を選  
んでおり、①と②に解説を付す。

持統 天皇

① 春過ぎて夏来るらし白たへの衣ほしたり天の香具山

前田 夕暮

② ひまはりは金の油を身にあびてゆらりと高し日のちひささよ

藤原 定家

③ 駒とめて袖打ちはらふかけもなしさのわたりの雪の夕暮

依 万智

④自転車のカゴからわんとはみ出してなにか嬉しいセロリの葉っぱ

柿本 人麻呂

平成四年度版教科書

『小学校 国語 六年上』

「春過ぎて 佐佐木 幸綱」(四八頁～五三頁)

四八頁から四九頁にかけて短歌と俳句に関する解説、その後に短歌と俳句を比較対照するかたちで古歌二首と近代短歌を一首、併せて三首を収載する。短歌も俳句もイメージしやすいように色彩感豊かな作品を選んでおり、①と②に解説を付す。

①春過ぎて夏来るらし白たへの衣ほしたり天の香具山

持統 天皇

②ひまはりは金の油を身にあびてゆらりと高し日のちひささよ

前田 夕暮

③駒とめて袖打ちはらふかげもなしさののわたりの雪の夕暮

藤原 定家

四 大阪書籍の短歌教材

平成十七年度版教科書

『小学国語 6上』

「短歌と俳句」(八〇頁～八七頁)

八〇頁に短歌と俳句に関する簡単な解説、八一頁から八二頁にかけて古歌四首と近現代短歌三首、併せて七首を収載する。①、②、③に短文の解説を付す。

① 東の野にかぎろひの立つ見えてかへりみすれば月かたぶきぬ

橘 曙覧

② 楽しみはまれに魚煮て児らみながうまうましといひて食ふ時

斎藤 茂吉

③ みちのくの母のいのちを一目見ん一目見んとぞただにいそげる

阿倍 仲麻呂

④ あまの原ふりさけみればかすがなるみかさの山にいでし月かも

大隈 言道

⑤ ねこの子のくびのすがねかすかにもおとのみしたる夏草のうち

四賀 光子

⑥ ひぐらしのつがなげば二つなき山みな声となりて明けゆく

俵 万智

⑦ 今日までに私がついた嘘なんてどうでもいいよというような海

平成十七年度版教科書

『小学国語 6下』

「書き写そう」の八頁に『小倉百人一首』の解説、九頁から一一頁にかけて『小倉百人一首』の八首を収載し、各歌に語釈を付す。

○春すぎて夏来にけらし白妙のころもほすてふあまのかぐ山

持統 天皇

○足引の山鳥の尾のしだりおのながながし夜をひとりかもねん

柿本 人丸

○田子の浦にうち出てみれば白妙のふじのたかねに雪はふりつつ  
山辺 赤人  
小野 小町

○花のいろはうつりにけりないたづらに我身よにふるながめせしまに  
小式部 内侍

○大江山いくの道のとをければまだふみもみず天のはしだて  
伊勢 大輔

○いにしへのならの都の八重桜けふ九重にほひぬるかな  
能因 法師

○あらし吹三室の山のもみちばは竜田の川のにしきなりけり  
崇徳院

○瀬をはやみ岩にせかるる滝川のわれてもすゑにあはむとぞおもふ

平成十三年度版教科書

『小学国語 6上』

「短歌と俳句」(八六頁〜八九頁)

八六頁に短歌と俳句に関する簡単な解説、八七頁から八八頁にかけて古歌四首と近現代短歌三首、併せて七首を収載する。①、②、③に短文の解説を付す。

① 東の野にかぎろひの立つ見えてかへり見すれば月かたぶきぬ  
柿本 人麻呂

② 箱根路をわがこえくれば伊豆の海やおきの小島に波のよる見ゆ  
源 実朝

③ みちのくの母のいのちを一目見ん一目見んとぞただにいそげる  
斎藤 茂吉

④ あまの原ふりさけみればかすがなるみかさの山にいでし月かも  
阿倍 仲麻呂

⑤ ねこの子のくびのすずがねかすかにもおとのみしたる夏草のうち  
大隈 言道

⑥ ひぐらしの一つがなけば二つなき山みな声となりてあけゆく  
四賀 光子

⑦ 今日までに私がついた嘘なんてどうでもいいよというような海  
依 万智

平成十一年度版教科書

『小学国語 6上』

「(二) 短歌と俳句」(九四頁〜九九頁)

九四頁に短歌と俳句に関する簡単な解説、九五頁から九七頁にかけて古歌三首と近現代短歌五首、併せて八首を収載する。①と②に短文の解説を付す。

① 東の野にかぎろひの立つ見えてかへり見すれば月かたぶきぬ  
『万葉集』 柿本 人麻呂

② みちのくの母のいのちを一目見ん一目見んとぞただにいそげる  
斎藤 茂吉

③ 秋来ぬと目にはさやかに見えねども風の音にぞおどろかれぬ  
『古今集』 藤原 敏行

『金槐集』 源 実朝

④箱根路をわがこえくれば伊豆の海やおきの小島に波のよる見ゆ

与謝野 晶子

⑤金色のちひさき鳥のかたちしていてふ散るなり夕日のをかに

伊藤 左千夫

⑥おりたちて今朝の寒さをおどろきぬつゆしととかきの落葉深く

石川 啄木

⑦ふるさとの山に向ひて

言ふことなし

ふるさとの山はありがたきかな

俵 万智

⑧今日までに私がついた嘘なんてどうでもいいよというような海

平成七年度版教科書

『小学国語 6上』

〔二〕 短歌と俳句（一一六頁～一二二頁）

一一六頁に短歌と俳句に関する簡単な解説、一一七頁から一一九頁にかけて古歌三首と近代短歌四首、併せて七首を収載する。①と②に短文の解説を付す。

『万葉集』 柿本 人麻呂

① 東の野にかぎろひの立つ見えてかへり見すれば月かたぶきぬ

斎藤 茂吉

② みちのくの母のいのちを一目見ん 一目見んとぞただにいそげる

『古今集』 藤原 敏行

③ 秋来ぬと目にはさやかに見えねども風の音にぞおどろかれぬる

『金槐集』 源 実朝

④ 箱根路をわがこえくれば伊豆の海やおきの小島に波のよる見ゆ

与謝野 晶子

⑤ 金色のちひさき鳥のかたちしていてふ散るなり夕日のをかに

石川 啄木

⑥ ふるさとの山に向ひて

言ふことなし

ふるさとの山はありがたきかな

伊藤 左千夫

⑦ おりたちて今朝の寒さをおどろきぬつゆしととかきの落葉深く

平成七年度版教科書

『小学国語 6下』

「与謝野晶子の文学碑を訪ねて 田中春子」に、与謝野晶子の以下の三首を収載する。

○ 堺の津 南蛮船の行き交へば 春秋いかに入りまじりけむ

○ 海こひし潮の遠鳴りかぞへつつ少女となりし父母の家

○ その子はたちくしにながるるくろかみのおごりの春のうつくしきかな

平成四年度版教科書

『小学国語 6上』

「二 短歌と俳句」(二四頁～二九頁)

二四頁に短歌と俳句に関する簡単な解説、二五頁から二七頁にかけて古歌三首と近代短歌四首、併せて七首を収載する。①と②に短文の解説を付す。

『万葉集』 柿本 人麻呂

① 東の野にかぎろひの立つ見えてかへり見すれば月かたぶさぬ

齋藤 茂吉

② みちのくの母のいのちを一目見ん一目見んとぞただにいそげる

『古今集』 藤原 敏行

③ 秋来ぬと目にはさやかに見えねども風の音にぞおどろかれぬる

『金槐集』 源 実朝

④ 箱根路をわがこえくれば伊豆の海やおきの小島に波のよる見ゆ

与謝野 晶子

⑤ 金色のちひさき鳥のかたちしてふ散るなり夕日のをかに

石川 啄木

⑥ ふるさとの山に向ひて

言ふことなし

ふるさとの山はありがたきかな

伊藤 左千夫

⑦ おりたちて今朝の寒さをおどろきぬつゆしととかきの落葉深く

『わたしたちの 小学国語 6下』

『日本語のリズム — 短歌と俳句 —』(二六頁～三二頁)

二六頁に日本語の五音・七音のリズムについて解説し、二七頁から二八頁にかけて古歌三首と近代短歌四首、併せて七首を収載する。①と②に短文の解説を付す。

東歌(『万葉集』)

① 多摩川にさらす手作りさらさらに何そこの児のここだ愛しき

佐佐木 信綱

② ゆく秋の大和の国の薬師寺の塔の上なる一ひらの雲

藤原 敏行(『古今和歌集』)

③ 秋来ぬと目にはさやかに見えねども風の音にぞおどろかれぬる

寂蓮法師(『新古今和歌集』)

④ 村雨のつゆもまだひぬまき葉にきり立ちのぼる秋の夕暮れ

石川 啄木

⑤ 東海の小島のいその白砂に

われ泣きぬれて

かにとたはむる

木下 利玄

⑥ およぎゆかん入江の向かうの岸遠しはだかとなれる小学生徒

依 万智

⑦ 白菜が赤帯しめて店先にうっふううっふうかたを並べる

五 日本書籍の短歌教材

平成十三年度版教科書

平成十一年度版教科書

『わたしたちの 小学国語 6下』

「短歌と俳句」(六一頁～六七頁)

六一頁に短歌と俳句について簡単に解説し、六二頁から六四頁にかけて古歌二首と近現代短歌六首、併せて八首を収載する。①、②、③に解説を付す。

①石いばしる垂水たるみの上のさわらびの萌もえ出いづる春はるになりけるかも

志貴しき 皇子みこ

良暹りょうぜん 法師ほうし

②さびしさに宿しゆくを立ち出いでてながむればいつくも同じ秋あきの夕暮ゆふぐれ

窪田くぼた 空穂うつほ

③鳴なく蝉せみを手握たにぎりもちてその頭あたまをり見みつつ童わらわ走はせ来る

与謝野よきの 晶子あきこ

④金色こんじきのちひさき鳥とりのかたちしていてふ散いるなり夕日ゆふひのをかに

北原きたはら 白秋はくしゅう

⑤石いがけに子ども七人しちにんこしかけてふぐをつりをり夕焼ゆふやくけ小焼せうやくけ

石川いしかわ 啄木たくぼく

⑥晴はれし空そらあおげばいつも

口笛くちふえを吹ふきたくなりて

吹ふきてあそびき

木下きのした 利玄りげん

⑦街まちをゆき子どものそばを通かるときみかんの香かせり冬ふゆがまた来る

森もり 比左志ひさし

⑧戸とをおして出いづれば外そとは月夜げつやなり戦いくさひやみぬ生き残りたり

「文語の調子」(六七頁)に、⑦の他に次の一首を収載する。

(正岡子規)

〇くれなるの二尺ふたしち伸びたる薔薇ばらの芽こゝろの針はりやはらかに春雨はるさめのふる

平成七年度版教科書

『わたしたちの 小学国語 6下』

「短歌と俳句」(六一頁～六九頁)

六三頁に短歌と俳句について簡単に解説し、六四頁から六六頁にかけて古歌二首と近現代短歌六首、併せて八首を収載する。①、②、③に解説を付す。

①石いばしる垂水たるみの上のさわらびの萌もえ出いづる春はるになりけるかも

志貴しき 皇子みこ

良暹りょうぜん 法師ほうし

②さびしさに宿しゆくを立ち出いでてながむればいつくも同じ秋あきの夕暮ゆふぐれ

窪田くぼた 空穂うつほ

③鳴なく蝉せみを手握たにぎりもちてその頭あたまをり見みつつ童わらわ走はせ来る

与謝野よきの 晶子あきこ

④金色こんじきのちひさき鳥とりのかたちしていてふ散いるなり夕日ゆふひのをかに

北原きたはら 白秋はくしゅう

⑤石いがけに子ども七人しちにんこしかけてふぐをつりをり夕焼ゆふやくけ小焼せうやくけ

石川いしかわ 啄木たくぼく

⑥晴はれし空そらあおげばいつも

口笛くちふえを吹ふきたくなりて



吹きてあそびき

木下 利玄

⑦街をゆき子どものそばを通るときみかんの香せり冬がまた来る

森 比左志

⑧戸をおして出づれば外は月夜なり戦ひやみぬ生き残りたり

文語の調子（六九頁）に、⑦の他に次の一首を収載する。

（正岡子規）

○くれなるの二尺伸びたる薔薇の芽の針やはらかに春雨のふる

平成四年度版教科書

『わたしたちの 小学国語 6下』

「短歌と俳句」（六三頁～六九頁）

六三頁に短歌と俳句について簡単に解説し、六四頁から六六頁にかけて古歌二首、近現代短歌六首、併せて八首を収載する。①、②、③に短歌の解説を付す。

志貴 皇子

①石ばしる垂水の上のさわらびの萌え出づる春になりけるかも

良暹 法師

②さびしさに宿を立ち出でてながむればいつくも同じ秋の夕暮れ

窪田 空穂

③鳴く蟬を手握りもちてその頭をりをり見つ 童走せ来る

与謝野 晶子

④金色のちひさき鳥のかたちしていてふ散るなり夕日のをかに

北原 白秋

⑤石がけに子ども七人こしかけてふぐをつりをり夕焼け小焼け

石川 啄木

⑥晴れし空あおげばいつも

口笛を吹きたくなりて

吹きてあそびき

木下 利玄

⑦街をゆき子どものそばを通るときみかんの香せり冬がまた来る

森 比左志

⑧戸をおして出づれば外は月夜なり戦ひやみぬ生き残りたり

文語の調子（六九頁）に、⑦の他に次の一首を収載する。

（正岡子規）

○くれなるの二尺伸びたる薔薇の芽の針やはらかに春雨のふる

## 六 おわりに

以上、前稿に掲出できなかった学校図書、大阪書籍、日本書籍の小学  
校国語教科書に収載された短歌教材を出版社ごとに纏めてみた。こうし  
た作業をすることによって、収載される短歌の妥当性や歌数の適否、取  
り扱う時期の問題など改めて気づかされることは少なくない。『百人一

首』など古歌に対する取扱も各社各様で、表記なども必ずしも統一されて  
いるわけではない。与謝野晶子の「金色のちひさき鳥のかたちして」  
で始まる有名な一首の場合、「銀杏」と表記している教科書もあれば、  
「いでてぶ」と表記している教科書もある。

初めて短歌を学ぶ児童に対し、どのような時期に、どのような短歌を、  
どの程度、どのような形で与えればよいのであろうか。小学校の国語教  
科書における短歌教材について検討すべき課題は多いが、それらについ  
ては稿を改めて考察することとしたい。